謹啓　みなさまにはますますご清栄のことと存じます。

　さて、先般、亡母○○召天にあたりましては、ご多用中にもかかわらず、心のこもったお祈りの言葉と、過分なるお花料を賜りまして、まことにありがとうございました。

　おかげさまで、ここ三十日の記念式を無事に済ませることができました。

つきましては、はなはだ勝手ながら、故人の遺志により、みなさまからのご厚志を福祉団体○○○○に寄付させていただきたく、本日手書きを済ませました。なにとぞご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

　本来ならば、お目にかかりましてお礼を申し上げるところですが、まずは書中をもってごあいさつ申し上げます。

令和○年十月